

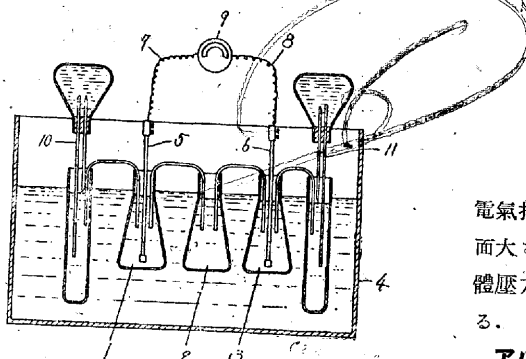
特許公告抄録

(昭和 16 年 10 月中)

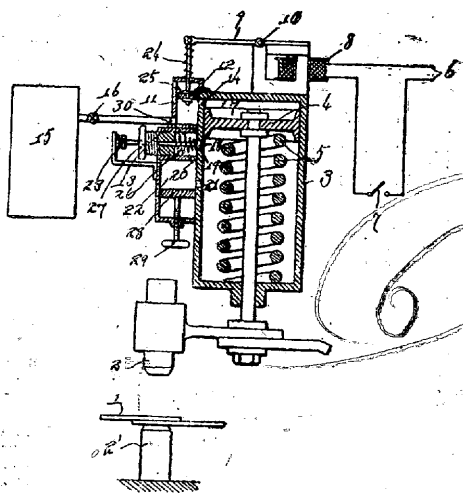
酸化銻半導體抵抗體の製造方法 (1) 第 5143 號 [16-10-10] (2) 昭 15-10-2, (3) 中西勝治, 相澤常八, (4) 逕信大臣, 本發明は酸化第二銅の粉末を壓縮成形し 900~1100°C. に焼成して磁器化するものを更に 800°C 以下の温度にて再加熱處理を行ひ半導體の抵抗物を製造する方法に係る。

電氣接點 (1) 第 5191 號 [昭 16-10-10] (2) 昭 15-2-21, (3) (4) 後藤良亮, 本發明は Ir と Os とを適宜の割合に混合したものの 20~80% と Rh 80~20% との混合割合を陽極の成分とし又白金 15~85% と Rh 85~15% との混合割合を陰極の成分となし且上記兩極とも其の纖維狀結晶構造を直角に切截せる断面を有效使用面とすることを特徴とする電氣接點に係る。

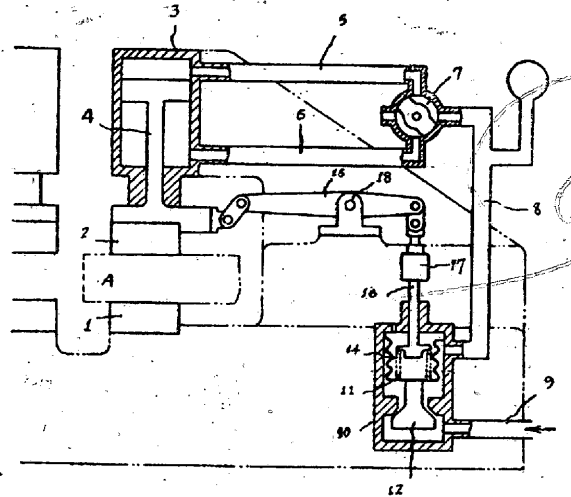
金屬酸洗試驗法 (1) 第 5253 號 [昭 16-10-15] (2) 昭 15-7-13, (3) 樋口勇, (4) 東京製綱株式會社, 東仙太郎, 本發明は酸洗液中に試料金屬線を挿入し又硫酸第一鐵若くは金屬鹽類の如き溶液中に表面の酸化物を完全に除去したる金屬線を挿入して兩金屬線を電位差計に接続し以て各金屬線と溶液との間に生ずる電位差の變化を測定することにより酸洗完了の時間を測定する金屬酸洗試驗法に係る。



輕金屬電氣抵抗熔接機 (1) 第 5345 號 [昭 16-10-20] (2) 昭 16-5-14, (3) 鈴木木四郎, (4) 旭電氣工業株式會社, 本發明は圖に示す如く壓搾空氣によりピストンを押下げ被銲接物を兩極間に押壓し同時に熔接電流を流通せしめ得べくしたる銲接機に於て押壓用氣筒の側部に減壓室を設け之を調整弁を介して氣筒と連絡し且調整弁には之と索聯作動する電路開閉装置を取付けてピストンが所要の部分に押下げらるゝ際調整弁を押開して氣筒と減壓室との間の通氣連絡を生じ同時に銲接用電氣回路を形成せしめ得べく構成せる抵抗銲接機に係るものである。

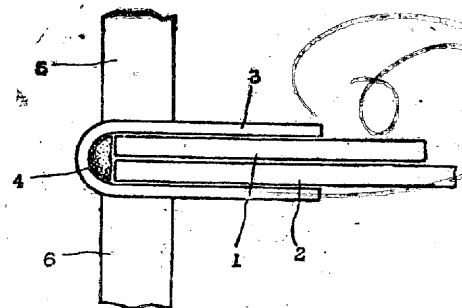


電氣抵抗熔接機の材料摺持装置 (1) 第 5346 號 [昭 16-10-20] (2) 昭 16-5-16, (3) 平田篤男, (4) 株式會社日立製作所, 本發明は流體壓力により作動する電極により被熔接材を摺持すべく成れる



電氣抵抗熔接機に於て前記電極の材料摺持動作に聯動し該材料の断面大きの如何に應じ前記流體壓力による摺持力を自動調整すべき流體壓力調整装置を具備せしめた抵抗熔接機の材料摺持装置に係る。

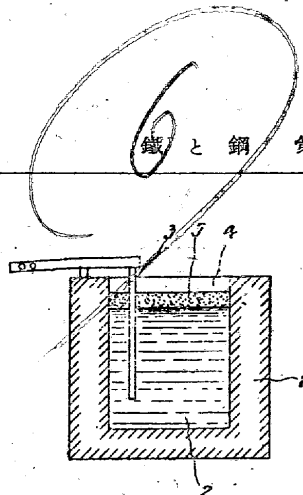
アルミニウム接合法 (1) 第 5347 號 [昭 16-10-20] (2) 昭 16-6-12, (3) 桑原英雄, 小本春雄, (4) 株式會社安川電機製作所, 本發明は圖に示す如くアルミニウムの端部を接合するに當り該接合部を被接合體より熔融點高き例へば銅の如き金屬の屈曲片間に挾在せしめ且該金屬の屈曲部と前記アルミニウム線端部間に熔融點低きアルミニウムの細片を媒體として挿入し銅片の外面に電極を接觸して抵抗銲接を行ふことを特徴とするアルミニウム接合法に係る。



銲接用棒珠に電弧銲接用棒 (1) 第 5348 號 [昭 16-10-20] (2) 昭 16-1-22, (3) 白耳義, カミーユ, ジトー, (4) ラ・ス・ド・デュール, デレクトリック, オートヂエニス, ソシエテ, アノニム, 本發明は軸方向に延長する金屬部片間に配置せられたる添加物を有する銲接用棒に於て前記添加物は相互に隔離せられたる溝内に配置せられ折疊まれたる薄き帶狀片の折目の面によりて限界せられたることを特徴とする銲接棒に係る。

防熱層を有する鹽槽式電氣爐 (1) 第 5370 號 [昭 16-10-20] (2) 昭 14-11-2, (3) 後藤安太郎, (4) 田中惠, 本發明は熱的に絶縁性を有し鹽化物熔劑よりも比重小なる物質の微粉末又は微粒子を

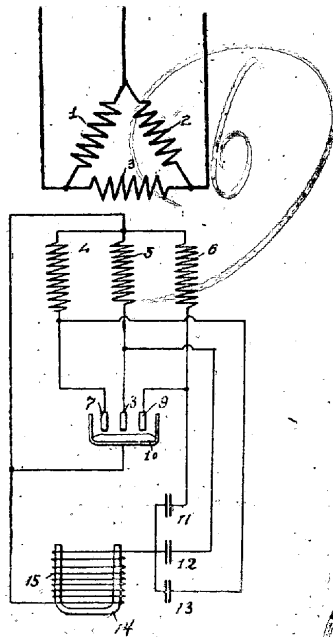
以て爐口内熔劑表面を覆ひ且熔劑中に被熱處理金屬を挿入し又は之を取出す際何等の障害とならず容易に破壊せられ又直に回收する如き斷熱層を爐口内熔劑表面に設けたる斷熱層を有する鹽槽式電氣爐に係る。



鹽槽式電氣爐に熔劑として使用するべき鹽化物 (1) 第 5371

號 [昭 16-10-20] (2) 昭 14-11-27, (3) 小川喜代一, (4) 田中惠, 本發明は鹽槽式電氣爐に熔劑として使用するベリウム, ナトリウム, カルシウム, 等の鹽化物に是等鹽化物より比重小にして且熱的に絶縁性を有する物質の微粉末例へばグラファイト又は炭素の粉末を適量混和せる鹽化物に係る。

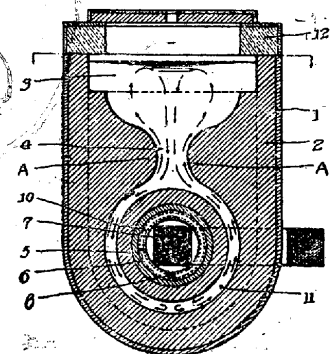
高周波誘導電氣爐 (1) 第5373 號 [昭 16-10-20] (2) 昭 15-2-8, (3) 鈴木徳彌, 宮地延雄, 樋口東一, (4) 東京高周波電氣爐株式會社, 本發明は圖に示す如く多相交流就中三相交流を其の構成相數に分離し各相に夫々一組の蓄電器及火花放電間隙を配し爐槽を圍める一個の共通の加熱線輪を通じて此等を順次交番に發振せしむる如くなした高周波誘導電氣爐に係る。



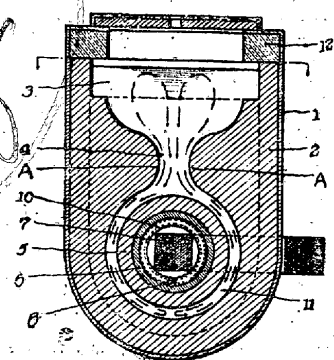
誘導電氣爐 (1) 第 5374 號 [昭 16-10-20] (2) 昭 15-2-15, (3) (4) 安田徳治, 本發明は圖に示す如く爐内壁の内方空胴部に管を挿入し該管内軸心部に鐵心を裝置し

該鐵心に液體冷却裝置を施したる一次線輪を捲装し以て一次側と二次側との間隔を極端に接近せしめて漏洩磁束によるリアクタンスを減少し力率を増大すべくせる誘導電氣爐に係る。

誘導電氣爐 第 5375 號 [昭 16-10-20] (2) 昭 15-2-15, (3) (4) 安田徳治, 本發明は圖に示す如く熔融金屬の對流

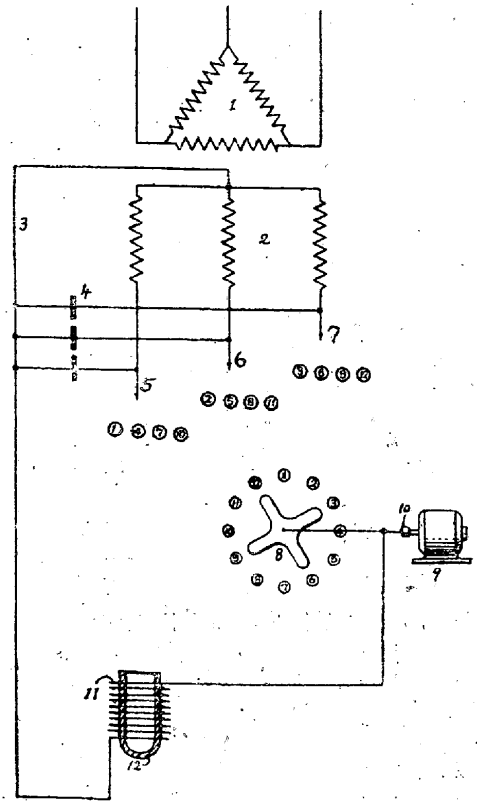


する二次回路と之に連接する坩堝の壁を挾持するか若くは坩堝壁間に間隙を存して突出部を設けてレザクタンスを増し力率を良好ならしめて以て熔融能率を増進し且熔融金屬の對流を均等に以て全熔融金屬の對流により之を攪拌したると同様の作用を行はしむる様にしたる誘導電氣爐に係る。



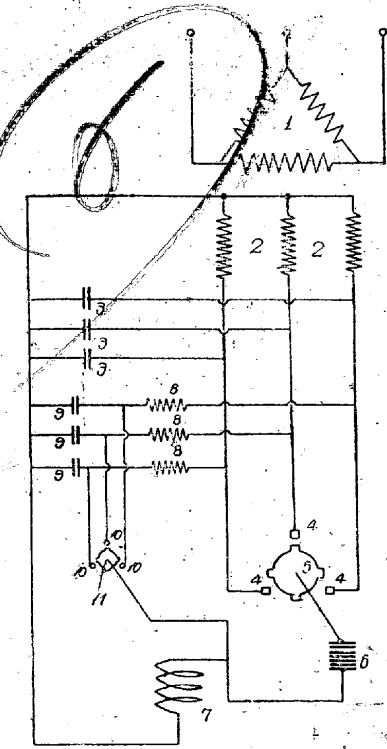
高周波誘導電

氣爐 (1) 第53 76 號 [昭 16-10-20] (2) 昭 15-6-4, (3) 樋口東一, (4) 東京高周波電氣爐株式會社, 本發明は圖に示す如く電源に多相交流就中三相交流を使用し選昇變壓器に依り之を變壓分相なし各相に夫々蓄電器及火花放電電極子を配置し該火花放電電極子を以て同期機に連絡し回轉する電極子に對向せしめ各相を一個の加熱線輪を通して順次交番に發振せしむる如くなした高周波誘導電氣爐に係る。



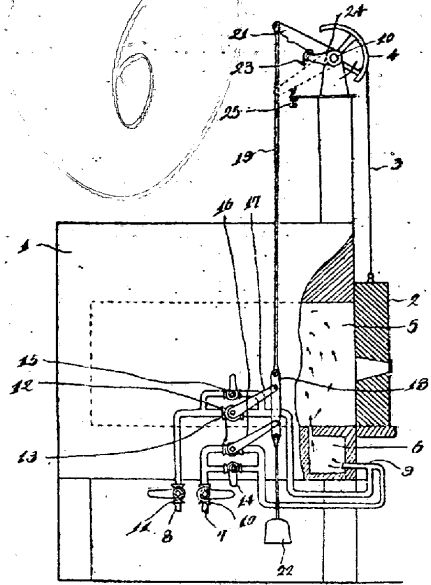
多相電流を電源とする高周波誘導電氣爐 (1) 第 5377 號 [昭 16-10-20], (2) 昭 15-8-7, (3) (4) 樋口東一

本發明は圖に示す如く三相交流等多相交流の各相に夫々發振用蓄電器を配し同期電動機に連絡せる回轉火花間隙に依り各相を順次交番に一個の加熱(誘導)線輪を通して放電發振せしむる如くなしたる方式に於て火花間隙を擴げ放電間隙を脱せる所に固定し別々に附屬せしめ且同一機構より成る小容量の高周波電流發生裝置により生ぜしめたる高周波電流を前記火花間隙に供與し之に依り其の間隙の絶縁を破壊し以て任意の瞬間加熱用高周波電流を發生せしむる如くなしたる高周波誘導電氣爐に係る。



電氣抵抗爐内雰囲気制御

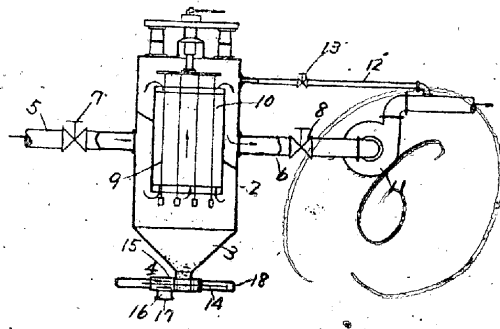
裝置 (1) 第 5378 號 [昭 16-10-20] (2) 昭 14-11-2, (3) (4) 加藤秀雄, 本發明は圖に示す如く空氣と瓦斯との混合瓦斯を豫燒爐室にて豫燃焼せしめて其の上部の爐室内に導入せしむる電氣爐に於て空氣制御弁と瓦斯制御弁とを互に聯絡し且つ此等の制御弁と爐室の開閉扉とを互に聯動せしめて扉の開放運動に際しては制御弁を作動



して空気及瓦斯の供給を漸次増量せしめ扉が一定度の開きに達したる後は制御弁を其一定の開きの儘に止め扉の閉鎖運動に際しては扉が再び上記の開きに復歸したる後制御弁を作用して空気及ガスの供給を漸次減量して遂に元の状態に復歸せしむる様構成せる爐の装置に係る。

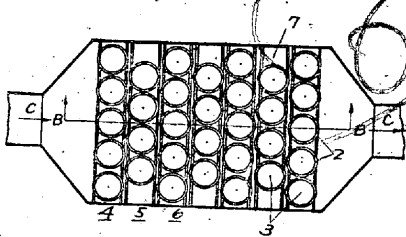
器内外の壓力差

大なる電気收塵器に於ける收集物搬出方法 (1)第5382號[昭16-10-20] (2)昭15-8-3, (3)和田正脩 (4)株式会社日立製作所, 本發明



は圖に示す如く收塵室内に對する處理瓦斯の流出入を一旦遮断せる後室内ガス壓力が大氣壓に比して正壓なるか又は負壓なるかに應じて夫々收塵器系統中の一定壓力部分との間に適當にガスの吸入排出を行はしむる事により其の壓力をして大氣壓と略均等の値に保たしめ此の状態にて内外の氣密を保持しつゝ器内の堆積物を外部に搬出すべくしたる電気收塵器内の收集物の搬出方法に係る。

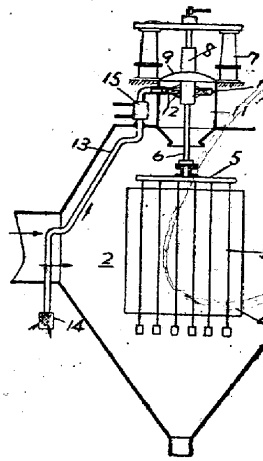
電気收塵装置 (1)第5383號[昭16-10-20] (2)昭15-8-13,



(3)木下茂一, (4)株式会社日立製作所, 本發明は圖に示す如くガスの流動方向に對し互に中心位置が齟齬する如く金屬網よりなる圓筒電極と其の軸心位置

に配置したる細線條とよりなる管式收塵單位をガス流と直角に配設したる電気收塵装置に係る。

選鑛機 (1)第5386號[昭16-10-20] (2)昭14-12-2, (3)渡部勇, (4)小林鑛業株式会社, 本發明は圖に示す如く運行中のエンドレスゴムベルトに靜電氣を帶電せしめ其の帶電部分をして鑛物粉末の上方を通過せしめ該粉末各粒子の金屬含有量の有無又は大小に應ずる靜電氣吸着力の強弱差を利用して廢石粉末又は廢石粉末及金屬含有量の小なる粉末を選別除去し有價粉末を殘留せしむる選鑛機に於てゴムベルトの帶電部分の下方に鑛物粉末の容器を其の一端がゴムベルトを摩擦する帶電用ローラーの下位に存する如く配設し而して該容器を上下方向に衝動せしむる手段を設けたる選鑛機に係る。

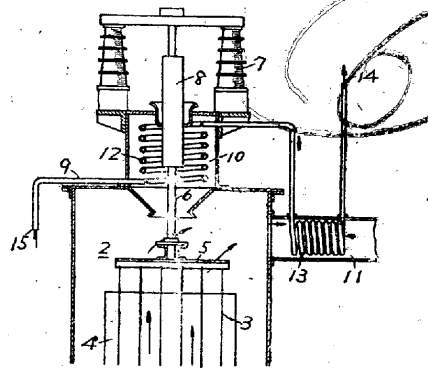


電気收塵器に於ける絶縁保護装置

(1)第5384號[昭16-10-20] (2)昭15-8-31 (3)田中健太郎, (4)株式会社日立製作所, 本發明は圖に示す如く絶縁體を圍繞して其の外表面を熱空氣にて絶えず吹掃すべくなる空氣噴射装置を具へ其の使用熱空氣としては被處理ガス中を通過せしめて之と略同一温度に豫熱せしめたる後更に之より所定温度丈け高く加熱したる清淨空氣を供給すべく構成したる電気收塵器に於ける絶縁保護装置に係る。

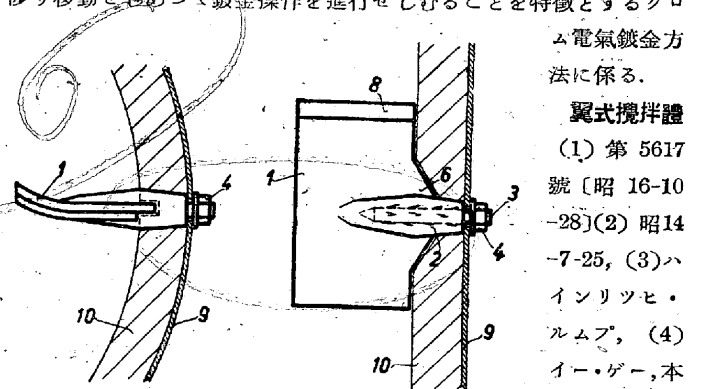
電気收塵器に於ける絶縁體冷却装置 (1)第5385號[昭16-10-

20] (2)昭15-9-5, (3)和田正脩, 田中健太郎, (4)株式会社日立製作所, 本發明は絶縁體の收容器内に冷却氣を吸入循環すべくしたる冷却管系を具へ該系の通風動力は前記冷却管系の延長部を直接被處理ガスにて加熱することによりて得る如く構成したる收塵器の絶縁體冷却装置に係る。



クロム電気鍍金方法 (1)第5591號[昭16-10-25] (2)昭15-

6-18, (3)堤憲一, (4)陸軍大臣, 本發明は細長き筒狀物の内面にクロムを電鍍するに當り該被鍍金物を兩端に於て之と同一内徑を有し陽極體の長さより小ならざる長さを有する補助筒を以て挾持し又は該補助筒と被鍍金物とを螺着其の他の手段によりて一體となして結合筒狀體を形成し長き絶縁物製管の端部外周に導電物を被着し其導電物の兩端に絶縁物を介して夫々導電物より大徑なる穿孔板より成る準輪を具備し且絶縁物製管内に導入せられたる導線を前記導電物に連絡して構成したる陽極體を上記の結合筒狀體内の全長に渉り移動せしめつゝ鍍金操作を進行せしむることを特徴とするクロム電気鍍金方法に係る。



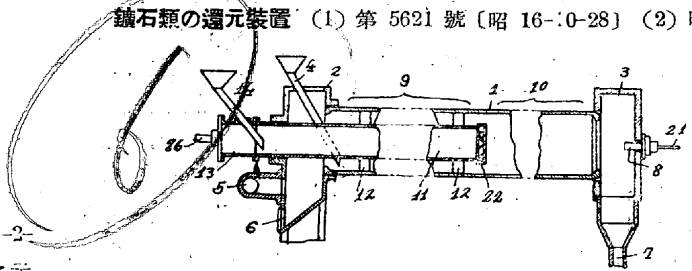
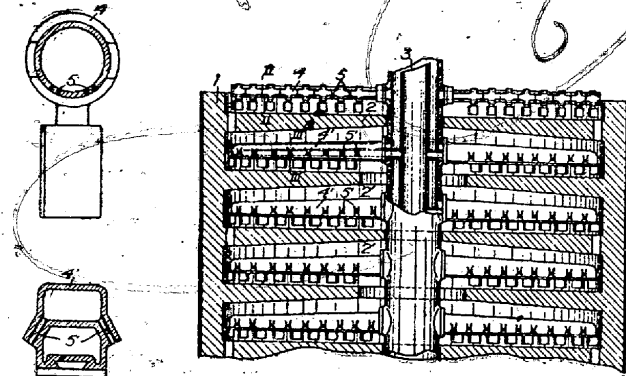
翼式攪拌體

(1)第5617號[昭16-10-28] (2)昭14-7-25, (3)ハインリッヒ・ルムプ, (4)イー・ゲー, 本發明は圖に示す如く回轉爐等の裝入物の攪拌装置に於て中心に配置せる唯一の固着體に依り爐外套と固く結合する様構成したる翼式の攪拌體に係る。

回轉鑛石焙燒爐 (1)第5618號[昭16-10-28] (2)昭15-1-30, (3)橋川壽夫, (4)株式会社日立製作所, 本發明は圖に示す如く中空堅軸に中空攪拌腕を取付け且該攪拌腕に通孔を設け之より堅軸冷却用の空氣を鑛石層上に吹付くる如く構成せる回轉鑛石焙燒爐

環状鋸と同数又は1個少き突片の結合よりなる断面形状の異径環状鋸とを各突片相互に緩く嵌合する如く内外嵌合せしめ一方の鋸の内周を廻轉爐殻の末端に近き外面に緩挿し他方の鋸の外周を構枠に固着して爐殻の外面に沿ひて長さ方向に向ふガス通路に対する障壁を構成し該障壁を三個乃至三個以上間隔を距て、設置し相隣れる固着環状鋸の外周を取り圍む圓筒形周壁を設けて各障壁の中間に外氣より遮斷せる空室を形成し且爐の口端に近き空室に爐の廢氣を通し爐の口端より隔りたる空室内に爐の排氣道程中大氣壓以下の低壓部分を連通したることを特徴とする廻轉爐外氣遮斷装置に係る。

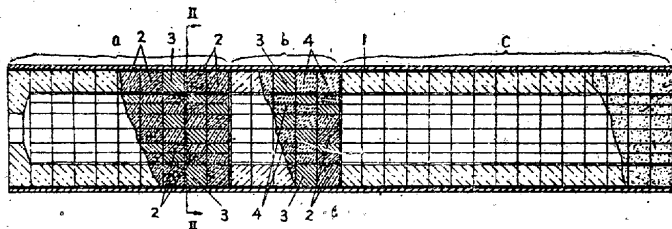
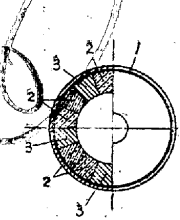
鑛石類の還元装置 (1) 第 5621 號 [昭 16-10-28] (2) 昭 15-



に係る。

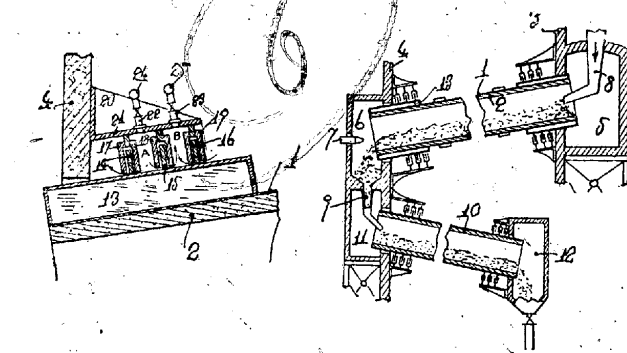
製煉用廻轉管狀爐 (1) 第 5619 號 [昭 16-10-28] (2) 昭 15-2-

5, (3) 米山剛介, 伊藤孝次, (4) 旭硝子株式會社, 本發明は圖に示す如く裏装面の一部又は全部にムライト質鑄造耐火ブロック或はこ



の粉碎物を主成分とする燒成耐火ブロックと剝離面を側面即隣接耐火粉ブロックとの接觸面となしたる結晶片岩ブロックとを貼交ぜとなして裏装耐火材を構成した廻轉管狀爐に係る。

廻轉爐外氣遮斷装置 (1) 第 5620 號 [昭 16-10-28] (2) 昭 15-5-4, (3) 木村俊, (4) 株式會社栗本鐵工所, 本發明は圖に示す如



く U 字形 W 字形等複數の突片を定間隔に結合したる断面形状の

8-22, (3) (4) 大川讓, 本發明は圖に示す如く一個の廻轉爐の一部を還元帯に殘部を豫熱帯に配し豫熱帯内に還元帯の廢熱にて加熱すべく乾溜爐を收容し該乾溜爐にて生成せるガスを還元帯の送出口部に設けたるバーナーに誘導すると共に乾溜爐の還元帯側端部に該爐の内外に開口し乾溜生成物を爐の廻轉に伴ひて送出するもガスを殆ど流通せしめざる通路を設けたることを特徴とする鑛石類の還元装置に係る。

不變振動數又は不變偏倚を有する彈性作働體 (1) 第 5622 號 [昭 16-10-28] (2) 昭 12-8-14 (3) 増本量, (4) 金屬材料研究所長, 本發明は特許第 135850 號の追加發明にして Co 1~74.9%, Cr 2~14%, Fe 16~68%, Ni 0.1~38%, 但 Ni 及 Co は總和に於て 25~75% の如く配合したる合金を常溫又は高溫の加工により所定形に作りこれに適當の熱處理を施せる彈性作働體に係るもので例へば Co 26.0, Ni 16.2, Cr 6.3, Mn 0.23, Si 0.15, 殘餘鐵のものは音叉等に使用して極めて優秀なるものなり。

附刃バイト製造法 (1) 第 5623 號 [昭 16-10-28] (2) 昭 15 3-25, (3) 山本一, (4) 株式會社日立製作所, 本發明は磁化したる高速度鋼刃を柄杆に吸着せしめたる状態に於て兩者を電氣熔接せしめ該熔接時或は熔接後の熱處理工程に於て前記刃を減磁せしむる事を特徴とする附刃バイトの製造法に係る。